

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	コロナ禍における依存者の緊急支援
資金分配団体名:	プラスソーシャルインベストメント株式会社
実行団体名:	特定非営利活動法人三重ダルク
実施時期:	2021年6月～2022年3月
事業対象地域:	三重県
事業対象者:	アルコール・ギャンブル・薬物等のアディクション（依存症）問題を抱える人、及び、重複する障害（知的障害や発達障害）のある人、地域在住の買い物や移動の支援を必要とする高齢者とその家族など。

Version 3.2  
日付: 2022年3月31日

## I. 事業概要

事業実施概要	<p>コロナ禍においてアルコール・薬物・ギャンブル等の依存症の増加が報告されている。しかし、感染予防の観点から、既存の自助グループの開催や新規相談者への対応がしにくくなっており、その影響（アルコール、薬物の再使用など）が出ている。このため、三重県志摩市に安全に集える相談支援の拠点を確保した。また、すでにダルクに繋がっている依存者にも影響がある。コロナ以前に比べ就職が困難になっており、回復してからの社会参加に影響が出ている。仕事が見つかりにくく、雇い止めの事例も多発している。こうした状況に対し、緊急かつ包括的な解決が求められる。</p> <p>今回のプロジェクトでは、三重県に新たな拠点を確保しつつ、コロナ禍によって就労・社会参加が困難になった依存症回復者を中心に、地域の高齢者の通院や買い物等の支援、弁当の配食等を行う事業を立ち上げることとした。志摩市は現在、高齢化が急速に進んでいる地域であり、高齢者の孤立を防ぐための様々な支援が求められている。ここに依存症回復者の就労の場を立ち上げる。依存者を単に支援の対象（社会的弱者）とせず、「共生」という視点に立ち、彼らを地域の有用な資源として捉えた解決を目指した。実施においては、住民との対話を重ね、社会福祉協議会を中心に関係機関との緊密な連携を図った。</p>
--------	---

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>コロナ禍における依存症者の増加と受け入れ態勢の危機は課題設定の通りである。今年度、新たに数十名の依存者（アルコール・ギャンブル・薬物等）がダルクにつながった。うち、志摩市での拠点開設により、伊勢志摩地域の2家族、5名の依存症当事者が拠点の利用を開始している。また、志摩市においては、人目につきやすい場所には相談に訪れにくいとの声もあり、市の中心部にありながら、相談に訪れやすい立地に拠点確保することができた。</p> <p>依存症回復者の就労困難は設定通り。申請時の課題（昨年度状況）は、今年度においても同様で、既に就労状態にあった回復者数名が仕事を減らされる、雇い止めとなるなどの状況となった。これらの依存症回復者と地域高齢者の課題を結ぶ事業として、当初、配食（お弁当）事業が想定していたが、予想したニーズ（配食）よりも、買い物支援のほうが喫緊の課題であったため、こちらに重点をシフトした。回復者6名（常勤4名・非常勤2名）の雇用を目指した。</p> <p>申請時に交渉できる状態にあった物件は、期限の関係で事務所機能・配食機能を分割（別町で2カ所）せざるを得なかったが、申請直後、新たな物件候補が見つかり、これを取得した。機能・効率面で設定よりも有利になった。</p>
-------------------	---

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
障害者	相談先の不足	三重県志摩市に新しい相談拠点ができ、専門相談員（ピアスタッフ・社会福祉士・精神保健福祉士・弁護士）が配置される。	該当地区の依存症当事者・家族の相談、支援が現地でできるようになる		伊勢志摩地区より、新規6名（薬物2名、ギャンブル2名、家族2名）利用	当初の目標はクリアしている。今後は利用者が増加していく見込み。
障害者	居場所の不足	回復のための「場」と「仲間」を必要とする依存者に、感染予防対策のされた集いの場を提供する。		地域活動支援センターの設置（認可）	のべ20人程度が利用。認可は遅延。	すでに依存症自助グループの開催も行われており、今後の発展が予想される。コロナ状況により、消防研修（必須）開催が延期されたため、認可が手続きが遅延している。
コロナで影響を受ける従事者	就業困難	ダルクにいる依存症回復者のうち、コロナの影響で就業困難となった人の雇用	断酒・断薬1年以上の回復者	常勤4名、非常勤2名	調整段階で約1名、開始後1名が離職	就業意欲だけでは継続が難しく、本人の特性や能力的制限に対する配慮も事前に考慮される必要があった。
中間支援者	連携の不足	社会福祉協議会に持ち込まれている買い物困難な地域高齢者の問題を共同で解決する	地域の課題解決に協働で取り組む	地域住民を交えた年5回ほどの連携会議等	社会福祉協議会・市役所と緊密な連携が取れるようになった	こちらが用意した計画だけでなく、地域機関からの情報に基づいた実施が良かった
高齢者	食料関連の不足	スーパーのない地域の高齢者に配食と買い物支援を行う	食品衛生・運輸の許可を取り実施	今年度は浜島町を対象に、年間100名程度の支援を行う	2度の試行運行、住民との話し合いの結果、R4年5月より本運行開始となった	地域住民から概ね好意的に受け入れられ、事業の継続が求められている。

## IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	志摩市商工課から次年度以降の事業継続のための助成開始（5月～）、宿泊業認可取得と営業開始（5月頃）、地域活動支援センター認可（6月頃）、空調機器の低エネルギーモデルへの置換（7月頃）、LABOを活用したエマージェンシス研修機能の構築（オンライン講座7月～2月、宿泊型研修の実施）、ソーラーパネル設置による太陽光発電（2023年）。
考察等	コロナの影響により、予定されていた各種認可が遅れているものの、地域住民との話し合いの時間を十分に持つことができ、より現実的なニーズの把握と対応を協議することができている。また、行政機関も来年度以降の事業継続のための予算の確保に動くなど、連携はうまく図られている。今後は宿泊業・イベント・研修事業を含めた収益事業の充実を図る。維持費低減のため、また、これからの10年を見据え、エネルギー転換を進める必要がある。

## V. 活動

活動	進捗	概要
志摩市内に相談支援・サービス拠点が確保されている。	計画通り	7月下旬、志摩市阿児町に拠点を確保することができ、清掃及び改装工事、備品の購入・搬入等を行い、9月末をもってオープンした。10月以降、自助グループ（毎週）、家族会（毎月）開催されている。
コロナ影響下で就労困難になった依存者の雇用	ほぼ計画通り	相談支援員として2名、コロナ禍によって就労に影響を受けた回復者メンバー4人を雇用了。1名が他の希望者との能力比較（劣等感）からドロップアウトした。プロジェクト従事者を2022年3月より当法人で正規雇用了。
孤立しがちな地域高齢者へのサービス提供	計画通り	11月より地域高齢者を対象とした買い物支援（浜島町4地区）サービスを開始した。概ね地域住民、関係者から好意的に受け止められたが、一部地域住民には異論もあり、今年度内の志摩市全域での展開が難しい可能性がある。
共生に向けた地域ネットワークの構築	計画通り	9月以降、志摩市社会福祉協議会、志摩市（地域福祉課・介護保険課・商工課）、志摩市障害者相談支援センターこだま等との連携会議がスタートした。以後、住民・関係機関との5回の会議がもたれた。
事業推進に必要な認可取得	遅延あり	食品衛生管理および営業許可取得（10月）、防火管理者（4月）、旅館業（5月）地域活動支援センター（6月）予定。
全国への情報発信・イベント	ほぼ計画通り	当法人ホームページに当プロジェクト専用ページを追加、機関紙を発行。
全国への情報発信・イベント	遅延あり	アディクション関連イベント（10月）、映画会（2月）開催。広報イベントは緊急事態宣言発令により、未実施。

## VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	志摩市の拠点として元保養所物件を取得、申請時に予定されていた＜相談支援＞＋＜弁当事業＞だけでなく、宿泊を含む研修事業、付随する食事提供が可能になり、今後の事業の一つとなったこと（SNS等での広報により、今年度はのべ136名の宿泊があった）。こうした想像以上の発展とそれに伴う作業（責任と苦労）の発生により、メンバーの中に創設者としての実感＜活動の主たる自覚＞が生まれ、それがやる気につながった。高齢者へのサービス提供においては、アルコール依存により、かつて運転免許を失った元プロドライバーのメンバーが免許を再取得し、ドライバーとして社会復帰した。住民間のクチコミにより、他町からも同様のサービス提供を望む声が上がっている。拠点は三重ダルク（津市）のメンバーのケア機能も担った。特に蔓延防止期間中など、外出が制限される時期はストレスリリースの場となった。さらにコロナ感染者発生時には、療養施設としても機能した。
---------------------	--

## VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	地域高齢者（買い物難民）への支援においては、概ね地域住民、関係者から好意的に受け止められ、志摩市商工課から次年度以降の事業継続のための助成（5年間継続）の提案を受けた。住民同士のクチコミにより、他地区からも同様のサービス提供を望む声が上がっている。反面、一部地域住民からは異論もあるため、志摩市全域での展開が難しい可能性があるが、志摩市社会福祉協議会は当団体の側に立って擁護して住民との調整を行なってきており、よい連携関係が構築できた。申請時の想定以上に使用可能な物件取得ができたため、多目的な活動が可能になり、セミナーのほか映画上映会なども開催した。さらに、宿泊業も業務（雇用）に想定することが可能になった。さらに今後の活動を見据え、屋根部へのソーラーパネル設置とエコ空調機器への置換、EV充電器の設置等が望まれる。また、関係者より、その他のニーズ（女性障害者の入所施設の不足、子どもへの配食）が示されたため、今後の事業に含めていく。
-----------	--

## VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
志摩市社会福祉協議会	当法人と住民との調整に参画してもらいニーズの確認と実施計画と一緒に練ってもらった。
志摩市障害者相談支援センターこだま	地域の福祉ニーズと本プロジェクトの接続を行なった。
志摩市役所（地域福祉課・介護保険課・商工課）	来年度以降の事業継続のための説明を行い、認可の準備を進めた。商工課より次年度以降の助成の打診有り。
志摩市民病院、県立志摩病院	想定外に連携に積極的ではなく（病院完結型）、連携に少し時間がかかりそうである。
志摩市浜島町住民	双方型の自立を目指すべく、本プロジェクトを共に推進した。地域住民の反応は上々で事業の継続が強く望まれている。

## IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	37,850,000	38,178,894	100.9%
	管理的経費	2,150,000	2,904,872	135.1%
合計		40,000,000	41,083,766	102.7%

補足説明	
------	--

## X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	三重ダルクホームページに当プロジェクト専用ページを増設（ <a href="https://miedarc.com/labo/">https://miedarc.com/labo/</a> ）、共同通信者による取材が予定されている。
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	三重ダルクニュースレター
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	ホームページに本助成についての記載。機関紙（ニュースレター）に特別企画号掲載。
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	三重ダルクホームページから規定類を一般公開できるよう対応した。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	定款に基づき、令和3年6月16日に社員総会、理事会を開催した。 また、令和4年1月19日に臨時総会を開催した。
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	役員の利益相反防止のための自己申告等に関する規定に基づき行っている。
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	三重ダルクホームページから規定類を一般公開できるよう対応した。
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	コンプライアンス責任者を設置している。
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部通報窓口を設けている。